

# 原木及び木材製品の流通に関する見通し調査(令和5年12月実施分)

1. 調査対象 道産針葉樹原木の消費量が概ね年間1千m<sup>3</sup>以上の製材工場及び合板工場(調査対象工場数:94)
2. 調査実施時期 令和5年12月
3. 調査の内容 (原料在庫状況)前年同時期と比べた認識について選択式(「多い」「少ない」「変わらない」)により調査  
(製品の荷動き)前年同時期と比べた認識について選択式(「良い」「悪い」「変わらない」)により調査

## 4. 企業判断指数の算出方法

[(回答全体のうち「多い」「良い」と回答した企業の比率(%)) - (回答全体のうち「少ない」「悪い」と回答した企業の比率(%))]  
(最大値100/最小値-100)

## 5. 調査結果(回答工場数:86社 / 回答率:91.5%)

### 【①原料在庫状況(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2023.1-3	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6
R5.3	<b>7</b>	<i>0</i>	<i>-10</i>	-	-	-
R5.6	-	<b>26</b>	<i>27</i>	<i>23</i>	-	-
R5.9	-	-	<b>19</b>	<i>26</i>	<i>17</i>	-
R5.12	-	-	-	<b>10</b>	<i>6</i>	<i>4</i>

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m<sup>3</sup>)

	2023.1-3	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6
当年	217,366	240,658	232,448	-	-	-
(前年)	159,675	175,044	178,153	181,049	217,366	240,658
対前年比	136%	137%	130%	-	-	-

(概況)

原木在庫は引き続き前年を上回る状況。過剰在庫は改善傾向だが、依然として製品需要低迷により在庫過多との声が多い。

(回答企業の主なコメント)

原木の入荷は順調/全体的に原木の在庫は多いが、特殊材は不足気味/春先のものがまだ残っている状況/原木在庫は前年同月比230%/原木の入荷は過剰気味であり、価格も下がってきている/受入調整継続中/

### 【②製品の荷動き(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2023.1-3	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6
R5.3	<b>-67</b>	<i>-67</i>	<i>-51</i>	-	-	-
R5.6	-	<b>-88</b>	<i>-81</i>	<i>-58</i>	-	-
R5.9	-	-	<b>-85</b>	<i>-78</i>	<i>-64</i>	-
R5.12	-	-	-	<b>-70</b>	<i>-73</i>	<i>-50</i>

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m<sup>3</sup>)

	2023.1-3	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6
当年	202,302	204,935	203,405	-	-	-
(前年)	209,572	239,236	239,699	231,299	202,302	204,935
対前年比	97%	86%	85%	-	-	-

(概況)

原木消費量は引き続き前年を下回る状況。住宅着工の減少が続き荷動き悪く、回復の見通しがつかない状況との声も多い。

(回答企業の主なコメント)

引き続き悪い状況が続くことが予想される/建築材の需要には期待したいが、価格面は厳しい状況が続くと思う/梱包材を扱う工場は受注残が減っていく一方で、先が見えない状況が続いている/

### 【③原料在庫状況(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2023.1-3	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6
R5.3	<b>-8</b>	<i>-17</i>	<i>-25</i>	-	-	-
R5.6	-	<b>27</b>	<i>25</i>	<i>10</i>	-	-
R5.9	-	-	<b>27</b>	<i>25</i>	<i>19</i>	-
R5.12	-	-	-	<b>6</b>	<i>8</i>	<i>0</i>

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m<sup>3</sup>)

	2023.1-3	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6
当年	195,976	235,805	251,858	-	-	-
(前年)	148,710	155,564	153,818	144,911	195,976	235,805
対前年比	132%	152%	164%	-	-	-

(概況)

原木在庫は引き続き前年を上回る状況。依然として製品需要の低迷により、在庫過多との声が多い。

(回答企業の主なコメント)

原木の入荷は順調/入荷調整は12月で概ね目途がつくが、1月以降は生産量を見ながら入荷量を考える/春先のものがまだ残っている状況/原木在庫は前年同月比200%/受入調整継続中/

### 【④製品の荷動き(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2023.1-3	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6
R5.3	<b>-76</b>	<i>-73</i>	<i>-53</i>	-	-	-
R5.6	-	<b>-90</b>	<i>-86</i>	<i>-50</i>	-	-
R5.9	-	-	<b>-86</b>	<i>-78</i>	<i>-69</i>	-
R5.12	-	-	-	<b>-64</b>	<i>-70</i>	<i>-49</i>

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m<sup>3</sup>)

	2023.1-3	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6
当年	181,861	187,550	180,271	-	-	-
(前年)	212,331	220,015	211,953	204,892	181,861	187,550
対前年比	86%	85%	85%	-	-	-

(概況)

原木消費量は引き続き前年を下回る状況。梱包材・パレット・ラミナの荷動き悪い状態が続いており製品価格の低下を指摘する声も

(回答企業の主なコメント)

第2四半期と同等に推移しているが、未だに上昇に転ずる気配を感じない/製品の受注の底は脱したが、回復に向かうのは来年度以降になるのは確実と思われる/製材の注文は悪く、特にラミナの動きが悪い/